

平成 27 年度水産研究成果情報

課題名: 垂下飼育技術を用いた有明海佐賀県海域におけるタイラギの母貝確保

[背景・ねらい]=現状

タイラギ(学名 *Atrina pectinata*)は、有明海佐賀県海域におけるヘルメット式潜水器漁業の主要漁獲対象種であるが、原因不明の「立枯れへい死」や低塩分・貧酸素の影響による斃死の発生等により 2000 年以降漁獲量が低迷し、タイラギ漁業者の経営が極めて厳しい状況となっている。

そこで、タイラギの産卵母貝を確保して資源回復につなげるため、一定の生残が見込める垂下飼育技術を活用し、飼育したタイラギの成育状況や親貝として機能するか確認を行った。

平成 27 年度は、前年度の課題であった収容個体数制限の対策として、これまで使用してきたポケット式垂下ネットの他に、より多く収容できる改良型提灯カゴを用いての垂下飼育を行った(図 1)。また、飼育個体が親貝として機能しているかを調べるため、7~9月の生殖腺を観察し、成熟状況を確認した。



図 1 ポケット式垂下ネット(左) 改良型提灯カゴ(右)

[成果]

有明海湾奥部で採捕したタイラギ稚貝を用い、太良町竹崎沖に設置した養殖筏において平成 27 年 6 月~28 年 2 月まで垂下飼育試験を実施したところ、改良型提灯カゴによる垂下飼育で台風等の影響により一部流出が起こったものの、貝柱の肥育効果は高く、ポケット式と比較しても、成長、生残に見劣りはなかった(表 1)。このことから、改良型提灯カゴでの垂下方式は有効であると考えられた。

また、垂下個体は 7~8 月に生殖腺が成熟期を迎え、9 月には放出期に移行していることが確認されたことから、主に 8~9 月にかけて放卵・放精したと考えられ、親貝として機能していることが推察された(図 2)。

表 1 垂下方式別飼育個体の成育状況の評価

年度	垂下方式	収容数	生残率	成長比	貝柱歩留	肥満度
H25	ポケット式	15	27%	1.39	11.50(±0.95)%	1.25(±0.17)
H26	ポケット式 (シリコン塗布)	15	40%	1.45	9.62(±2.71)%	1.38(±0.38)
	ポケット式	15	60%	1.44	8.69(±4.78)%	1.23(±0.51)
H27	ポケット式	15	20%	1.21	7.70(±2.55)%	1.27(±0.21)
	提灯カゴ	50	20% (29%)	1.19	7.16(±1.54)%	1.36(±0.26)
		100	44% (66%)	1.29	9.93(±1.80)%	1.38(±0.25)
		100	33%	1.29	11.87(±2.25)%	1.42(±0.27)
H22.3.4天然(参考値)					7.45(±1.16)%	0.74(±0.10)

1. 生残率の()は流出分を差し引いた生残率
2. 貝柱歩留(%)=貝柱重量(g)/殻付重量(g) × 100
3. 肥満度=むき身重量(g)/殻長(mm)³ × 10⁵

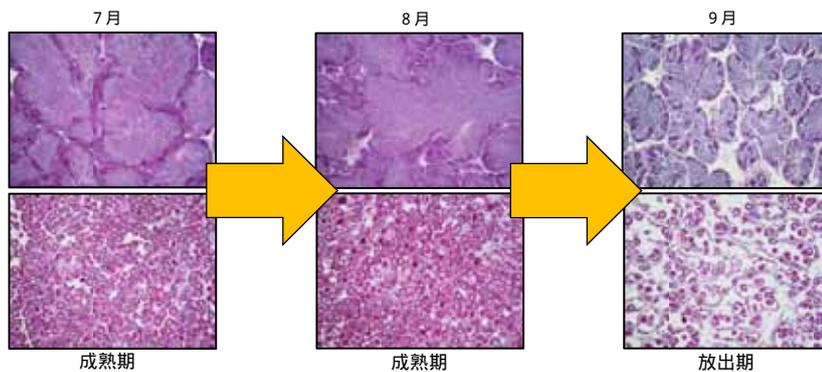


図 2 垂下個体の成熟状況

[成果の課題・問題点]

タイラギ垂下飼育による母貝の確保および母貝の機能の確認については一定の成果が得られているものの、斃死軽減や付着物対策を講じる必要がある。また、少しでも多くの母貝を確保するための垂下方式(収容数の増大等)についても検討していく必要がある。

[今後の対応]

- ・斃死対策、付着物対策の実施
- ・よりタイラギ収容数をアップさせる垂下方式の開発 等

[その他]

研究期間：平成 25 年～

研究担当者：有明水産振興センター 資源研究担当 福元 亨